

四男児服

乳児のうちには男児も女児も殆ど同じ形のもを着ますが、三歳頃から男児は上衣とズボンとに分れたものを用ひます。

上衣の形は、幼児用のは男女児とも殆ど變りません。

下衣は半ズボンを多く用ひ、上衣又は胸衣にボタン留めにしたたり、或は襟で吊つたりします。學齡頃からは帯でしめる半ズボンを着ます。しかし、近頃は、幼児も長ズボンを着ることがあります。



幼児用半ズボン

形

兩脇をあげ、前膝上にあきを作つたものです。上衣又は胸衣にボタン留めになります。

中等被服三

文部省

[後] ¥ 1.10

(112)

昭和二十一年四月一日印刷 同日發行
昭和二十一年四月五日發行 同日發行

(昭和二十一年四月五日 文部省検査済)

中等被服 三 〔後〕定價 壹圓拾錢

著作權所有 發行所 文 部 省

東京都神田區岩本町三番地
發行所 中等學校教科書株式會社
代表者 堀 井 寅 雄

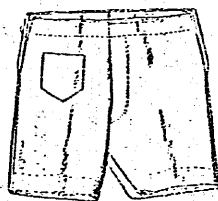
東京都千代田市谷町一丁目十二番地
印刷所 大日本印刷株式會社
代表者 佐久間 長吉郎

APPROVED BY MINISTRY
OF EDUCATION
(DATE APR. 1, 1946)

發行所 中等學校教科書株式會社

教科書検査 112ノ三

◇ 上衣又は胴衣にボタン留めにした半ズボンは、どんな點がよいのでせうか。



材料

ズボンは少し厚地のものを用ひます。色は濃いめで丈夫な染色のものを選びますが、上衣との調和を考へます。

居敷着で、ボタン掛け布の裏、見返し・持出し裏・腰裏などは、表が厚地の時は薄地の別布を用ひます。腰心は少し厚地の木綿の類が適當です。

仕立て方

一寸法

脇丈 脇で胴廻りの位置から適當な所まで測り、季節によつて加減しますが、身長の十分の三程度であります。

二 型紙の取り方

(一) 身ごろ

膝上 身長五分の一。上に二センチ(五分)加へます。

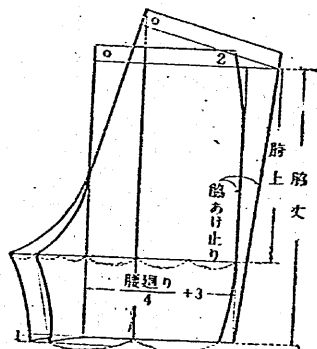
前後の上端 胴廻りの四分の一に二・三センチ(五分から八分)

加へます。

前裾幅 腰廻りの八分の一に二センチ(五分)加へたものを中央

から左右に測ります。

四男 兒 取



前後の差 四センチ(一寸)ぐらゐ。

後裾幅 前より脇と膝下とで二センチ(五分)狭げます。

脇あけ 腰廻り線の八センチ(二寸)上までとします。

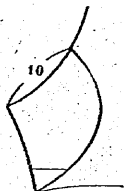
◇ 後前の脇丈はどのやうにして揃へますか。

(二) ボタン掛け布・持出しなど



イとロの間は前あきです。

(三) 居敷當て



三 裁ち方

各部分に次のやうな縫ひ代を入れて裁ちます。

(一) 身ごろ

裾 四センチ(一寸)ぐらゐ。

脇上 後二センチ(五分) 前

一センチ(三分)。

脇下 一・五センチ(四分)。

脇 後一センチ(三分)。前は

脇あけ止まりの二センチ

(五分)下から脇あけの間は

三・五センチ(九分)以下は

一センチ(三分)。

(三) ボタン掛け布・見返し・持出

し

上端一・五センチ(四分)。そ

の他〇・八センチ(二分)。

(三) 居敷當て

脇上 一・五センチ(四分)。

脇下 二センチ(五分)。

奥 〇・六センチ(一・五分)。

布目を必ず後身ごろと同じにして裁ちます。

◇ 居敷當ての布目を後身ごろと合はせないと、どうなるでせう。
(四) その他の小物

右のほかに次の小物を取ります。丈は出来上つたものによつて考へて裁ちなさい。

脇あけの見返し 幅三・五センチ(九分)とし、一方を耳の所で取ります。

腰裏 幅八センチ(二寸)内外。

腰心 幅五センチ(一寸三分)。

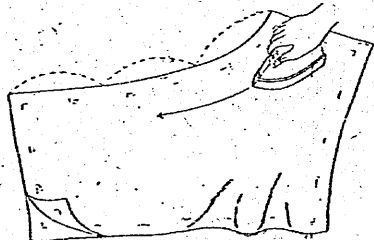
いづれも裁ち切りの幅です。

◇ 出来上つたものをよく見て、ボタン掛け布・見返し・持出しなどの布数と、布の向きを調べてごらん下さい。

四 縫ひ方

(イ) 曲取り 後脇上の三分の二ぐらゐの間を伸ばします。

◇ 伸し方が足りない時、どんな結果になりますか。



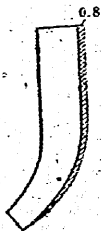
(ロ) 裾 最初に〇・六センチ(一・五分)に折り、次に出来上り線から折つて折り返りの間の膝下及び脇の縫ひ代を、表に合はせて裁ち揃へます。

(ハ) 後脇上 絲のつれないやうに縫ひ、縫ひ目を割ります。

(ニ) 居敷當て 膝上を縫ひ合はせて割り、奥を折つて裏に當て、假縫ひしてききます。

(ホ) 脇あけ 前後の脇あけの位置に見返しを縫ひ附け、そのさへ表に返さないで、ききます。

(ヘ) 前あき 先づ持出し布を左側のやうに整ち直します。



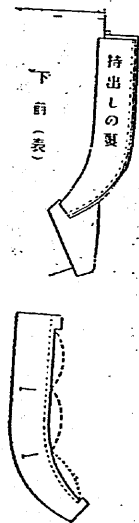
持出し布の表を下前の前あきに當てて、前あきの間を縫ひ合はせ、縫ひ目を割ります。



下前(表)

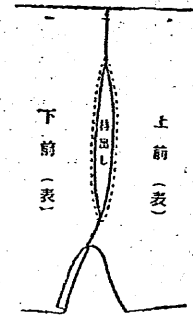
次に持出し裏を中表に當ねて、凸形の側を縫ひ合はせ、表へ返して凸形の方だけ飾りミシンをかけます。

ボタン掛け布を中表に合はせて、上は一・五センチ(四分)下は〇・八センチ(二分)残して縫ひ、表へ返して飾りミシンをかけ、穴かきりをします。

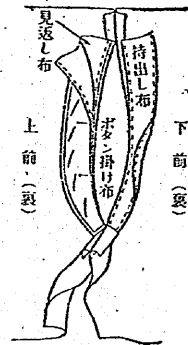


上前に見返しを當て、前あきの標から標まで縫ひます。
次に上端の縫ひ縫しと、あき止まりから下とを左右縫ひ合はせ
て縫ひ目を割り、

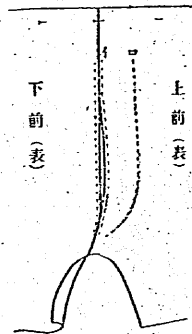
表へ返し、見返し
を少し控へて端に
ミシンをかけ、下
前持出しの縫ひ目
にもミシンをかけ
ます。



ボタン掛け布を
少し控へめに裏に
當てて假縫ひしま
す。



次に表から裏のミシンをかける。ミシンをかける時は、横に三、四回
ミシンをかけます。あき止まりは持出しを重ねて、横に三、四回
ミシンを重ねてかけ、しつかり留めます。

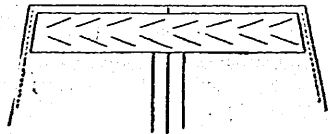


(ト) 脇縫ひ 脇をあき止まりまで縫ひ合はせて前へ折り、あき止ま
りに斜め、切り込みを入れて、前の持出しになる部分を伸してあ
きます。

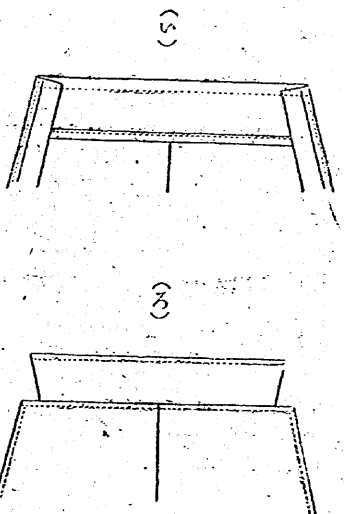
(チ) 腰心 下図のやうに腰心を裏に當
ててしつけ糸で綴じます。

(リ) 腰裏 腰裏の下端を一センチ (三
分) に折つてミシンをかけます。

次に表と中表に合はせて (ハ) 図
のやうに両端は出来上り線より二・
五センチ (七分) 控へて腰裏を折り、
その上に見返しを重ねて一センチ
(三分) の縫ひ代に縫ひ、出来上り
線から裏へ折ります。前後同じにし
ます。

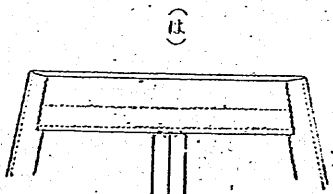


見返しを表に返して (ロ) 図のやうに脇あきの端及び上端に○・
三センチ (一分) の深さにミシンをかけます。



次に(は)圖のやうに見返しの上と腰裏の両端とをまつり、上端から三センチ(八分)さがつた所にミシンをかけ、腰裏の上端を後膝上の縫ひ代のある所だけ千鳥掛けで留めます。

◇ 脇あけの見返しを縫ひ付けて直ぐ表へ返すと、どうなるでせう。



(ヌ) 脇の飾りミシン、脇の縫ひ目に表から飾りミシンをかけ、あき止まりも中で後見返しと前持出しとを重ねて、しつかりまつり附けます。

(シ) 袴下、居敷當ての股縫ひを少し解いて、袴下を縫ひ合はせて縫ひ目を割り、その上に居敷當てをかぶせて周囲をまつり附けます。

(ヲ) 裾の始末

(ワ) 縫ひ代の裁ち目の始末 なるべく共色の糸でかかります。

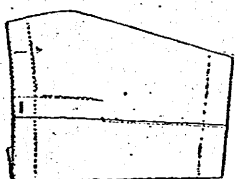
(カ) 穴かぶり 後の脇の穴だけは横にあけ、前の脇の穴は端から二センチ(五分)はいつてあけます。

(コ) 仕上げ

(タ) ボタン附けとくわんぬき留め

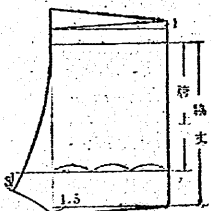
ボタンを附け、穴と穴との中央をしつかり留めます。

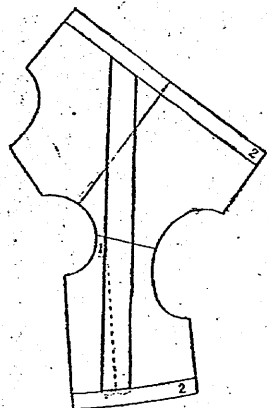
着用・手入れ



参考

ズボンを用以始めの幼児には、袴下をボタン留めにしたものが便利です。





襟で吊るズボンは脇あけを作らないで、上端の脇の部分にゴム紐を入れて胴廻りに合はせるのも一案です。



長ズボンの型紙は既習のものの適用で出来とす。

五 作業服



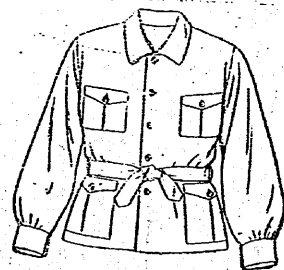
作業に適した被服が、勤労の精神を高め、緊張した簡素な生活に導き、家庭に於いても職場に於いても、あらゆる仕事の能率を上げることは、誰でも知つてゐる事實であります。

現在行なはれてゐる作業服は多種多様で、作業によつて、材料も、形も、着方も變つて來ます。必要に應じては、頭部や手や脚部などを保護する小物を用ひることもあり、これらもまた生産増強の上からゆるがせにできません。それら多くの作業服の中で、永い勤労の歴史には、くまられた各地方の仕事着には、簡素でしかも用になつたものを見出すことが少くありません。

總じて材料として地質・染色の堅牢なのがよいのはいふまでもないことです。

作業服(その一)

形

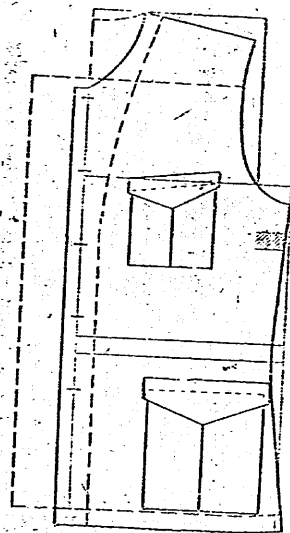


◇ この小開き立ち折り衿のはたらきを考へなす。

仕立て方

一 型紙の取り方

(一) 身ごろ



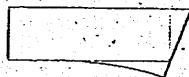
(二) 袖

◇ 既習のものを應用して型紙を作りなす。

(三) 衿

衿附けの線は、直線でも二センチ(五分)ぐらゐまでくつてもよいのです。

◇ 衿附け丈はどうしてきめたらよいでせう。

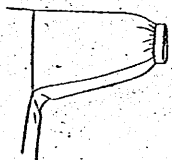
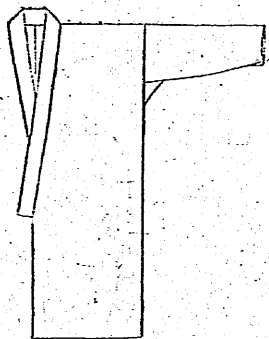


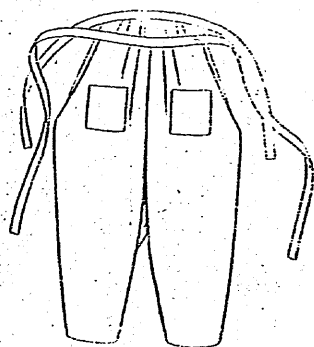
作業服(その二)

形

もんぺは、わが國の廣い地域に分布してゐますが、特に古くから東北地方に多く用ひられてゐたものであります。

◇ 上衣の袖が、腕を動かせるのに都合のよいやうに工夫されてゐる點を調べてごらんなす。





仕立て方

下衣

一寸法

脇丈 胴廻りの所から足くびまで。

後まち上 三〇―三五センチ（八寸から九寸二分）ぐらゐ。

前後の差 五センチ（二寸三分）ぐらゐ。まち上は、はき方や體格によつて加減します。

裾幅 一八一二〇センチ（四寸八分から五寸三分）。

脇あけ 二〇―二五センチ（五寸三分から六寸五分）。

前紐付け幅 二八一三〇センチ（七寸四分から八寸）。

後紐付け幅 前紐付け幅と同じにします。

後紐丈 胴廻りに結び代を加へた長さ。

前紐丈 胴廻りの三倍に結び代を加へ

ます。

膝當て布 幅は半幅ぐらゐ。丈は三〇

センチ（八寸）ぐらゐ。

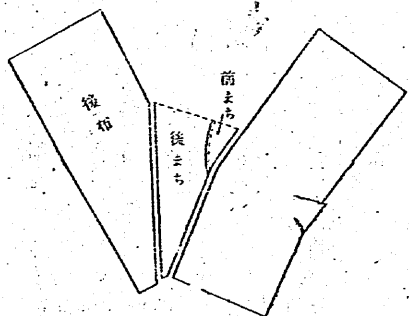
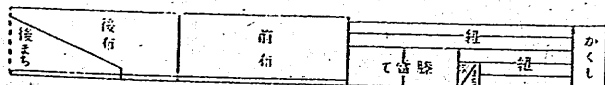
二 裁ち方

三 縫ひ方

前布に膝當て布を附け、各布を闊のやうに縫ひ合はせ、脇を縫ひ、脇あけを作ります。

次に裾口の始末をします。

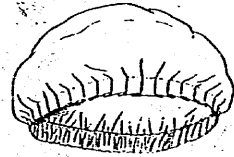
上部は前後とも紐付け幅になるやうにそれ／＼襷を取り、紐を附け、かくしを附けます。



着用・手入れ

作業用帽子

形



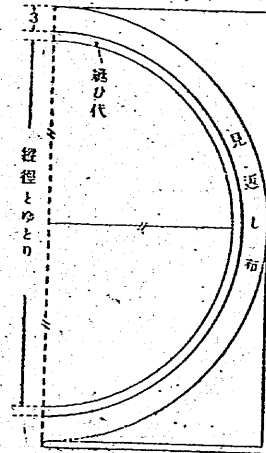
◇ 郷土の作業用のかぶり物を調べてもらなさん。

仕立て方

一寸法の測り方

図のやうにして縦徑を測ります。

二裁ち方



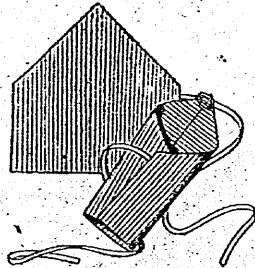
見返し布は斜め布を用ひてもよいのです。

三 縫ひ方

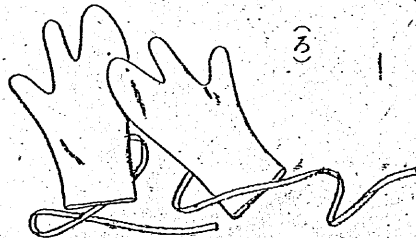
周囲に見返しを附け、前頸部に於いて凡そ二〇センチ(五寸三分)ほどを襷として出来上り圖のやうに取ります。
他の部分は細紙、又はゴム紐を通します。

手甲・手袋・手さしの類

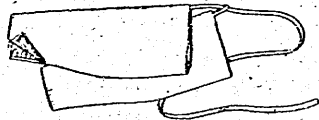
(い)



(ろ)



(は)



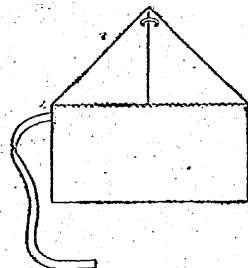
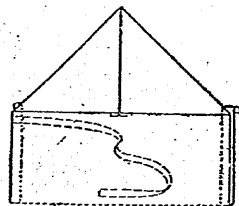
仕立て方

手甲

一 裁ち方

幅二五センチ（六寸五分）ぐらい。長さ三八センチ（一尺）ぐらいの布二枚。

二 縫ひ方



◇ 右の圖の縫ひ方を考へてごらんなさい。

手袋

一 型紙の取り方



二 縫ひ方

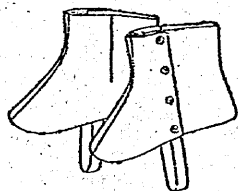
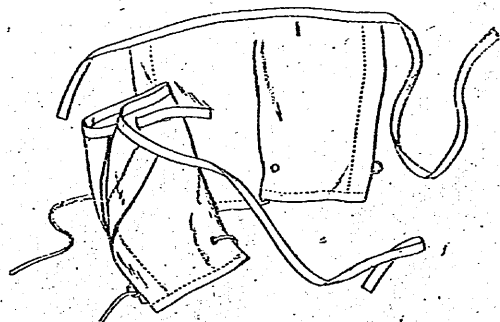
甲側に綿を入れて刺子にしてもよいのです。

手ざし

◇ 手ざしの裁ち方・縫ひ方を考へてごらんなさい。

脚絆・甲覆ひの類

形

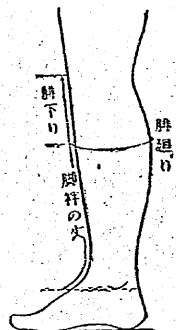


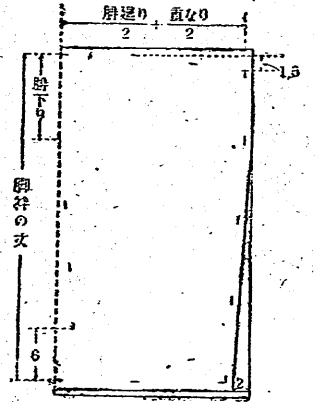
脚絆は脚部を適度に緊縛して疲労を防止し、又、外傷を防ぐために用ひます。

仕立て方

脚絆

一寸法の測り方





紐

幅 上は二センチ(五分)、下は〇・五センチ(一分)ぐらゐ。
丈 上は一三〇センチ(三尺四寸三分)、下は五〇センチ(一尺三寸二分)ぐらゐ。

三 縫ひ方

◇ 紐の附け方、紐通し穴の位置に就いて、研究してごらんなさ
さ。

甲 覆ひ

材料には特にしつかりした布が適當です。

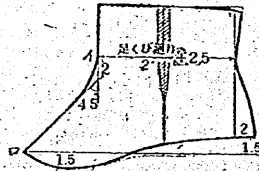
◇ 防寒・防雨・防火用として、それゝ適當な布を考へなさい。

型紙の取り方

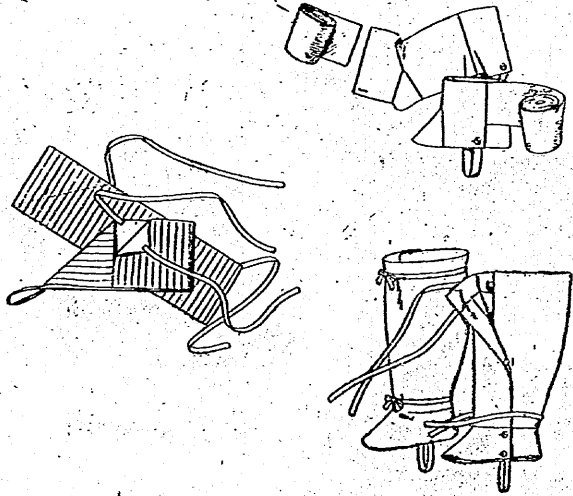
イ・ロの長さは實測します。

内甲で圖のやぐに一センチ(三分)ぐらゐのくせを取り、外甲は
かきの直なりで加減します。

靴の恰好や使用法などによつて違ひますが、要領は同じに
請へます。



参 考

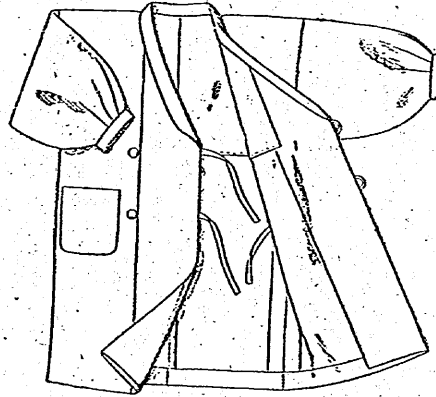


六外被類

防寒・防雨用外被

防寒用外被は保温に適し、防雨用外被は雨・雪に備へるなど、その使用目的に應じ、形・材料・着方に就いて総合的に考へなければなりません。

形



材料

婦人會食服とほぼ同じ形です。

◇ 防寒用外被として適當な材料を擧げてごらんない。適當な材料のない時は、どう工夫しますか。

寸法

身丈 羽織より五センチ（一寸三分）ぐらゐ長く。

ゆき うは着より三センチ（八分）ぐらゐ長く。

袖幅

袖丈

袖口

袖口布幅

前下り

後縮 長着の後幅ぐらゐ。裾は羽織と同様に擴げます。

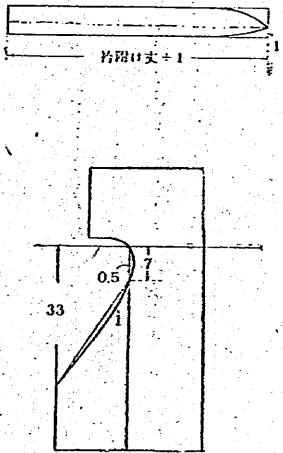
衿幅 六センチ（一寸六分）ぐらゐ。

堅衿幅 一五センチ（四寸）ぐらゐ。

堅衿下り 七センチ（一寸八分）ぐらゐ。

◇ 自分のものとして記入のない箇所の寸法を考へなさい。

二 型紙の取り方



衿付け線のくり方と衿・長着、又は羽織の出来上り衿肩廻りを基として、前頁の圖のやうにきめて、これを衿付け線とします。

三 裁ち方

◇ 自分のものとして裁ち方を考へてごらん下さい。

◇ なほ總尺はどれくらゐ必要か算出下さい。

衿付け線は下圖のやうに、身ごろと堅衿とを重ね合はせ、型紙を置いて裁ちます。

◇ 肩すべり布の大きさと裁ち方とを考へ下さい。

四 地直し

毛織物の類を用ひる場合は、布の裏から濕りを與へて、鏝をかけます。

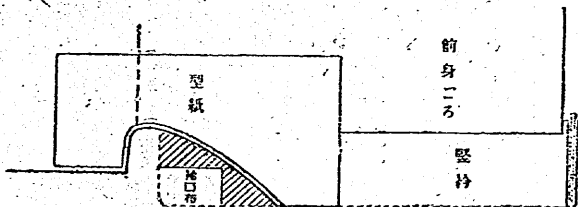
仕立て直しのものを用ひる場合は、衿付けの線に特に注意します。

五 標附け

堅衿の衿付けの線は、前身ごろと堅衿とを重ねて標を附けます。

六 縫ひ方

表が厚地の場合は背縫ひ・脇縫ひ・堅衿付け・衿付けなどの縫ひ目は附りやすく（割り仕立て）。



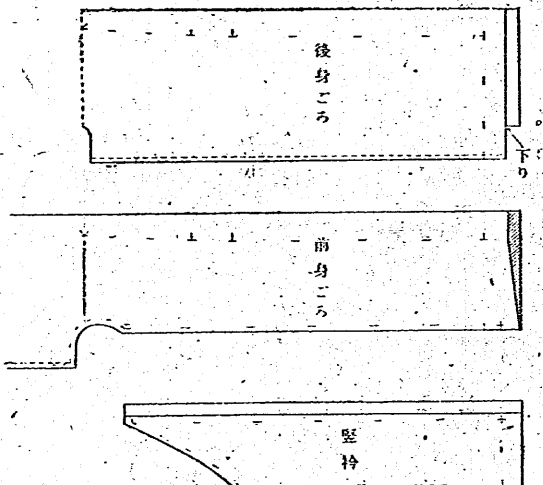
單仕立て

(イ) 袖縫ひ

(ロ) 堅衿付け及び裏堅衿の始末、裏堅衿を始末する時、前裾を折り整へておきます。

(ハ) 衿と衿付け 圖のやうに裏衿に心を合はせて緩ち、衿の外側を釣合を取つてしつけ糸で押さへます。心布は薄地で張りのあるものを用ひます。

衿の外廻りを縫ひ合はせ、心の縫ひ代を切り、表へ返して整へます。薄地のものは標準服の羽織の衿と同じです。



衿附けは標準服の羽織と同じ要領です。

(ニ) 肩すべり布附け

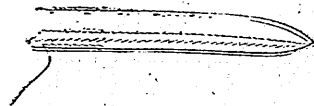
(ホ) 脇縫ひ

(ヘ) 裾の始末

(ト) 袖附け

(チ) かくし附け・ボタン附け・掛け紐附け・

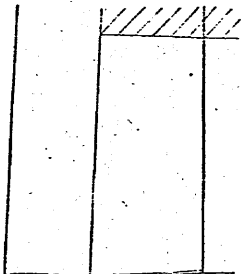
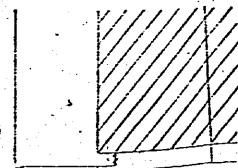
内紐附け



衿仕立て

厚地のもの

薄地のもの



裏布は表が薄地の時は羽織と同じやうにしますが、厚地の時は、普通裾より二センチ(五分)ぐらゐ上まで附けます。

七 仕上げ

着用・手入

◇ 防水加工をした外披の手入れの注意を告へてごらん下さい。

七 平 常 着 (男物)

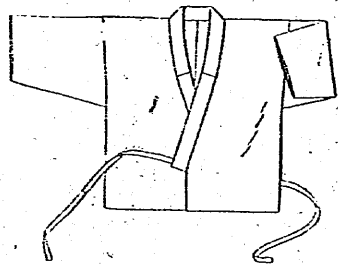
近來、男子の和装にも次のやうな形式が次第に多くなりました。これを以つて見ても服装改善の方途が男女とも軌を一にしてゐるといはれませう。

防寒には、羽織・はんでんなどを用ひます。



上衣・下衣

七 平常着 (男物)



材料

◇ 従来男物袴長着の材料には、どんなものを用いましたか。

下衣は一般に厚地の丈夫なものを用ひます。なほ上衣と共布で作つても差支ありません。

一寸法

上衣

丈 七〇センチ (一尺八寸五分) ぐらゐ。

ゆき

肩幅

袖幅

袖丈 三四センチ (九寸) ぐらゐ。

袖口

袖附け

後幅

前幅 布幅一ぱい。

衿肩あき

衿下 一五センチ (四寸)。

衿幅

寸法の記入してない所は、單長着にならつてきめます。

下衣

脇丈 脇廻り線のやゝ下の所からくるぶしまで。

脇上り 二センチ (五分) ぐらゐ。

後丈 前丈より四センチ (一寸) ぐらゐ長く。

後幅 三〇センチ (八寸) ぐらゐ。

腿幅 後幅に髀の分八センチ (二寸) ぐらゐ加へます。

膝上 三七センチ (九寸八分) ぐらゐ。

乗り間 二六センチ (六寸八分) 内外。乗り間はからだの厚みを基にして考へます。

前あき 二七センチ (七寸) ぐらゐ。

裾幅 二五センチ (六寸五分) ぐらゐ。

七 平着者 (男袴)

三十五

後縫幅 四・五センチ(一寸から一寸三分) 結び代の所は二・五センチ(七分)ぐらゐ。

後縫丈

前縫丈

前縫幅 二・五センチ(七分)ぐらゐ。

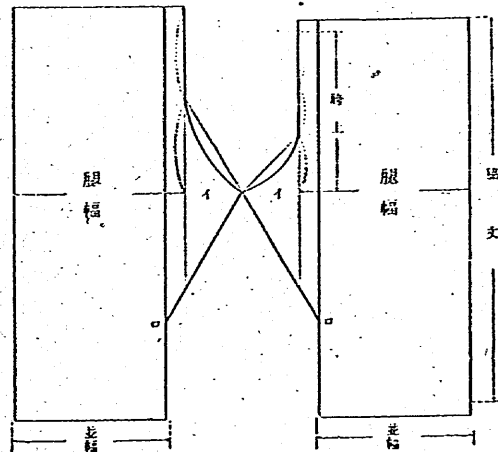
二裁ち方

上衣

◇ 表布はどれほどいりますか。

下衣

(一) 身ごろ・まち



イ 乗り間寸法の二分の一

ロ 跨下丈の二分の一、又はそれよりやや下の所。

並幅物の時は身ごろとまちとに分けます。

(二) 地直し

(三) 裁ち方

後布丈 九七センチ(二尺五寸五分)ぐらゐ。

前布丈 九五センチ(二尺五寸)ぐらゐ。

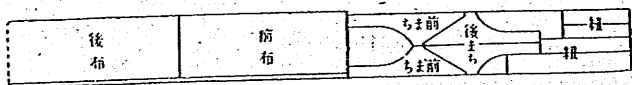
前まち丈 六八センチ(一尺八寸)。

後まち丈 七〇センチ(一尺八寸五分)。

残り布から裾口布・見返し布、かくしの口布などを取ります。

◇ 大裁ち長着から仕立て替へる場合の布の用ひ方を考へてごらん下さい。

◇ 下の圖を参考にして總用布を積つてごらん下さい。



三 標付け

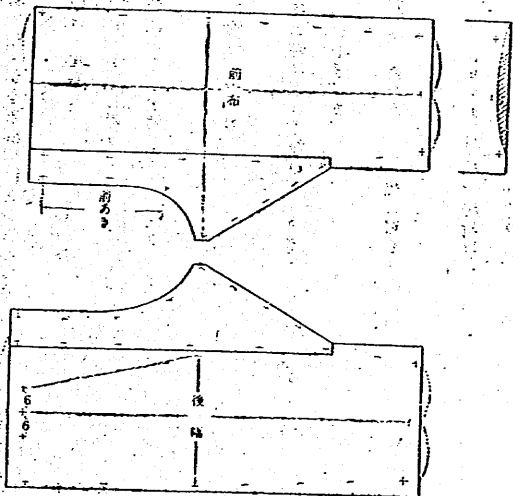
上衣

前出の平常着女物にならひます。

下衣

身ごろとまちとを重ねて次圖のやうに標を附けます。

七 平常着(男物)

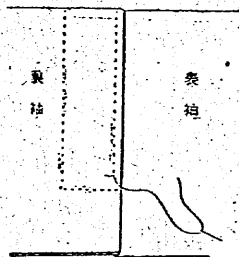


四 縫ひ方

上衣

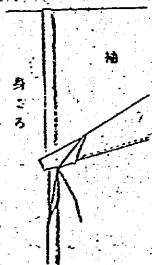
(一) 袖

- (イ) 袖口布掛け
- (ロ) 袖口合はせ
- (ハ) 袖下縫ひ 圖のやうに袖口を留め、袖下は袖口の方から四つ縫ひにし、袖附けの方八センチ(二寸)ぐらゐ表裏別々に縫ひ、袖附けの方は袖端まで縫ひます。



(二) 身ごろ

- (イ) 表。裏布の背縫ひ、脇縫ひ
- (ロ) 背・脇の縫ひ、紐通し穴
- (ハ) 衿下縫ひ
- (ニ) 裾の始末
- (ホ) 袖附け 表は單長着のやうに附けます。裏は袖も身ごろも縫ひ代を開いて附け、折りは身ごろの方へ折ります。それから始めに四つ留めをする時、身ごろのやうに考へて、裏から見て袖で身ごろを挟んで留めます。



◇ 裏の袖下が全部縫つてあつたら袖附けはどうなりますか。

- (ヘ) 衿附け・掛衿
- (ト) 紐附け・かくし附け

上前にかくしを附けることもあります。

下衣

- (イ) まち附け・膝下縫ひ

◇ 縫ふ時にどんな注意がいりますか。又、縫ひ代の始末はどのやうにしますか。

- (ロ) 脇縫ひ・脇かくし 右脇に縦かくしを作ります。

かくしの寸法

口 一五センチ(四寸)。紐附けの四センチ(一寸)ほど下から。

深さ 二三センチ(三寸五分)ぐらゐ。

幅 一五センチ(四寸)ぐらゐ。

かくしの作り方

口布付け 別布を用ひる時は、共布の口布を附けます。

口縫ひ 口の所を前布及び後布とそれ／＼縫ひ合はせます。

底縫ひ 底になる所を圖のやうに縫ひます。

(ハ)裾 裏側に三センチ（八分）幅の見返しを附けます。

(ニ)胯上縫ひ 後胯上から前胯上の前あき標まで縫ひます。

(ホ)前あきの始末 左右に見返し布を附けます。

(ヘ)襷取り

後の中央の襷 右脚の中央の襷山を標

附け圖のやうに折り、左脚の方は襷

の重なり分四・五センチ（二寸二分）

出して折り、中央の襷を圖のやうに

整へます。襷山は自然に消えるやう

にします。

後の脇襷 中央の襷山から左右へ二二

センチ（三寸二分）づつ離して脇襷

を取ります。脇襷は外向きにして、

大股脇線にならつて自然に消えるやうに折ります。つぎのの

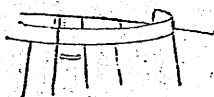
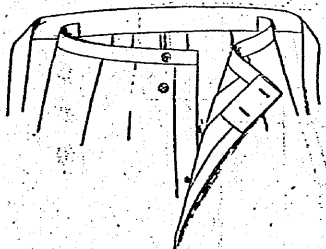
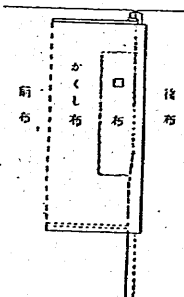
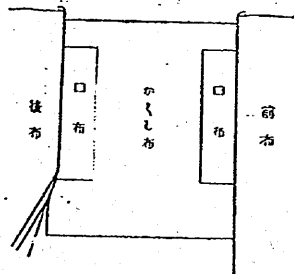
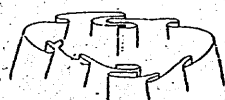
分量は後腰幅を取つた残りです。後腰幅は凡そ胴廻りの二分

の一ぐらゐになる程度にしておきます。

前襷 中央の重なりが凡そ後中央の襷と同じぐらゐになるや

うにし、なほ左右に各二つづつ内向きに襷を取ります。前

紐付け幅のきめ方は後にならひます。



(ト)紐付け 圖のやうに後布に後紐を附け、左右の前布にそれ／＼前紐を附けます。

(チ)ボタン掛け布・ボタン附け 前あきの左上部にボタン掛け布を附けます。ボタン掛け布には一箇又は二箇のボタン穴を作つてお

き、上下と奥を身ごろに綴ち附けます。

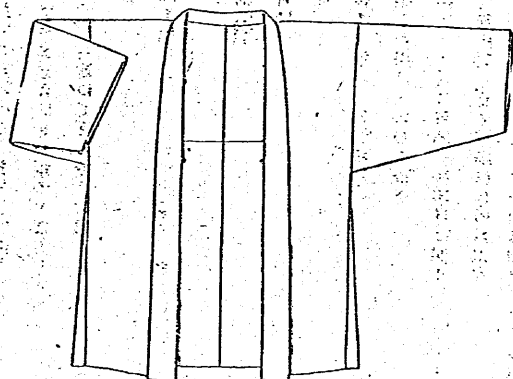
(ツ)紐通し附け・くわんのき留め

五 仕上げ

着用・手入れ

羽織

形



材料

仕立て方

一 寸法

身丈 肩から膝裏の八センチ（二寸）内外上まで。

後幅 長着と同じにします。

二

前幅 後幅の標より更に〇・八センチ（二分）ぐらゐ縫ひ入れます。
 まち幅 標で六センチ（一寸六分）ぐらゐにします。

「ち」下り 肩から三三センチ（八寸七分）ぐらゐ。

片袖 六センチ（一寸六分）ぐらゐ。

◇ うは着に縫綴して、寸法の加減を必要とする部分はどこです

か。その部分と加減する寸法とを擧げなさい。

二 裁ち方

◇ 表用布新規格一反での裁ち方を考へ、裏用布を積りなさい。

◇ 仕立て直しのものに就いて裁ち方を調べ、圖にしてごらんなさい。表裏の総用布は各、どれくらゐですか。

三 標付け

まちはまちはぎをして、まち上の折り代を折り、外表に表裏を合はせて幅の中ほどを假縫ひしてから、左右重ねて圖のやうに標を付けます。

四 縫ひ方

袖を開き付けにすると仕立て易く、整つて出来します。

(イ) 胴はぎ

(ロ) 背縫ひ

(ハ) 前下り

(ニ) 後まち付け・四つ縫ひ。

(ホ) 袖口布掛け・袖口合はせ

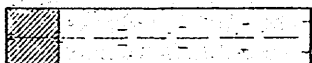
(ヘ) 袖付け・八つ留め 袖付けは開き付けにするため、袖を附けてから留めをします。縫ひ代の始末などは上衣にならひます。

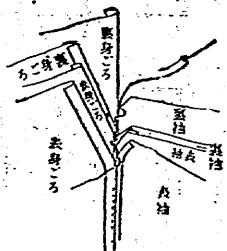
八つ留めをするには、布の裏側を出して表裏の前袖で後袖を挟んで留めます。

(ト) 袖縫ひ 袖口の留めをして袖下を四つ縫ひにします。

(チ) 前まち付け 縫込みは前下りに沿つて落ち着くやうにします。

七 平着類（男物）





(リ) 身ごろの衿附けの假綴ち・「ち」附け
(ヌ) 衿・衿附け

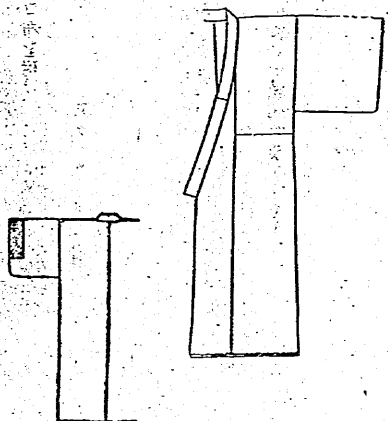
(又) 拾・拾附付

五
仕
上
げ

着用・手入れ

形

拾長蒲



表から見たとくろでは單長着と大差がありません。袴は筒袴にするこ
ともあります。

裏は袖口布を附け、揚げは普通肩にします。

材料

仕立て方

一寸法

單長着にならひ、袖口・裾は〇・二センチ（〇・五分）ぐらゐのふきを出して、表の傷みを防ぎます。

二、裁ち方

表單長着になります。

裏圖のやうに裁ちます。

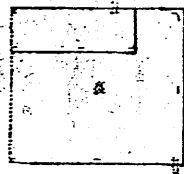
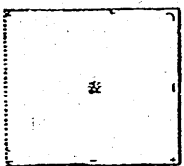
袖口布

丈 袖口より五センチ（一寸三分）ぐら
ゐ長くします。

輻並輻の四つ割りぐらゐ。

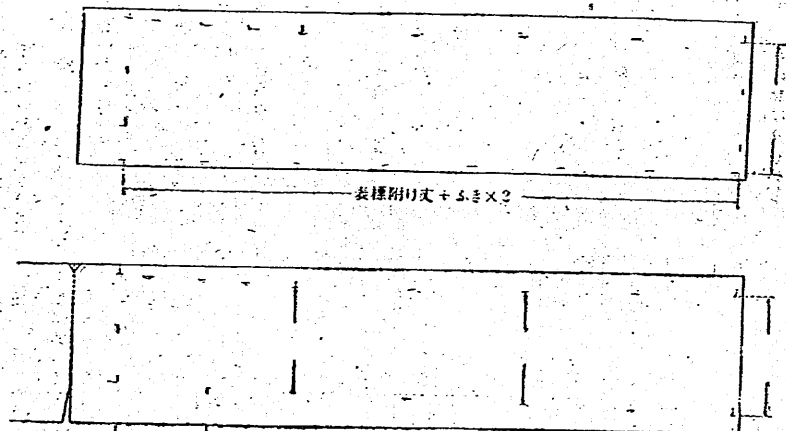
三 標附付

(一) 抽



拍	身	身	任	竹先
			任	竹各

(二) 身ごろ (裏)



(三) 衿

衿は表裏四枚重ねて標をします。この時裏は裾の方でふきの二倍
表より長くします。

四 縫ひ方

(一) 袖

(イ) 袖口布掛け

(ロ) 袖口合はせ・四つ留め

(ハ) 袖口下 袖口布のある間は表裏別々に縫つて綴合はせ、それ
から下は四つ縫ひにし、袖下は筒袖のやうに縫ひます。圓みの始
末は單長着のやうにします。

(二) 身ごろ・衿

(イ) 表の背縫ひ・脇縫ひ・内揚
げ・衿付け

(ロ) 裏の揚げ・衿付け・脇縫ひ
揚げは衿肩あきの方ですくひ
返し留めとし、後の方へ折り
ます。次に衿を付け、圓のや
うに縫ひ代を折つて揚げの所
に押さへ縫ひをします。

(ハ) 裾合はせ 衿の所に三セン
チ(八分) おきに押さへ縫ひ
をします。

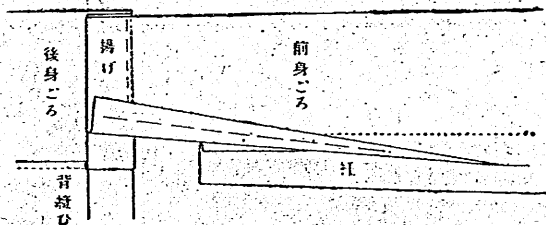
(ニ) 背・脇・衿付けの縦綴ち

(ホ) 衿下

(ヘ) 袖付け

(ト) 衿付け・掛衿

(チ) 裾綴ち 衿の間は裏の綴ち
をしません。衿付けから身ごろにかけての裾綴ちは巻合はせ式下
衣の衿にならひます。



七 平常着(男用)

五 仕上げ

着用・手入れ

は ん て ん

形

材料

仕立て方

一寸法

衿幅 五センチ(一寸三分)ぐらい。

二 裁ち方

◇ 羽織や長着から仕立て替へる時はどのやうに積りますか。

三 標附け

四 縫ひ方

五 仕上げ

着用・手入れ

總べて物の豊かな時には、往々贅澤な生活に傾き、柔弱に陥り易くなります。これに反し、物の少い時には、有るもので間に合はせて行くのが常で、そこにおのづから質實剛健の氣風も養はれます。

◇ このやうな例が歴史の中に見出されますか。又、地理的に考へられますか。

被服生活に就いても、「これだけの物はなくてはならない」といふ、限度に近い生活ほど健全であるといへませう。それで私どもは、被服の種類や數に就いてその限度を知り、これを基準として生活することが肝要であります。このやうな生活にはおのづから計畫が必要であります。

◇ 各自の被服の種類とその各々の枚數を記しなさい。

◇ なくてはならない被服の種類を挙げ、それを季節・用途によつて大別しなさい。

◇ 一箇年最小限度の被服生活を試み、被服の必要數を研究して學級で統計を作りなさい。

又、被服には壽命があり、どんなに修理をしても役に立たなくなつて、新しく作らなければならぬ時が來ませう。この使ひ始めてから使へなくなるまでの期間の研究も非常に大切で、このやうな統計は各自の被服生活の計畫に役立つばかりでなく、國の生産・配給企業の基礎資料ともなります。この被服の壽命に就いての調査・研究は、多數の人々が繼續して消費規正による生活をし、記録をし、それを統計して作るのが一方法であります。今日の衣料切符もその年度内の國民の必需品とその數量等を調査、研究し、一方、國の生産力を考へ合はせて作られたものであ

ります。

一家の被服生活に就いても、その年度内になくてはならない被服の種類と、数及び壽命を調べることによつて、始めて購入或は手入れ・仕立て直し・くり廻しなどの計畫が立ちませう。

裁縫・洗濯等、被服の處理に當つても計畫生活が大切であります。即ち、資材・勞力の節約の上からも、規則的生活をするためにも、又、常に清潔にする立場からも實行しなければならぬことでもあります。

◇ 手入れ等に就いて、一箇年・一箇月・一週間の計畫がありますか。

被服に就いては、有るもので間に合はせる工夫・計畫の生活が一層肝要であります。更にこの考へを擴充して、有無相通ずる隣保共助の生活も心掛けなければなりません。

◇ 被服は、使はずに長くしまつておくとうなりますか。

◇ 一年生以來の着用記録により、次のことを研究し、壽命に就いて學級で統計を作りなさい。

凡そ何日おきにどんな方法で何度洗濯しましたか。主にどんな縫ひ方にしますか。

使へなくなつたものに就いて、使へなくなつた理由を仕立て直しまでの期間、再生或は再生した品名及び方法、壽命等の記録によつて相互研究をなさい。

